

小浜に自噴井戸120本

県立大講座 70人地下水学ぶ

小浜市の地下水をテーマにした県立大の公開講座が8日、同市の県立若狭図書学習センターで開かれた。市民ら約70人が地下水の大切さや管理方法を学んだ。

地下水について詳しい総合地球環境学研究所(京都市)の谷口真人教授が講演した。谷口教授は小浜市の地下水について「雲水(一番町)や津島名水(津島)など、海辺に近い場所で、自噴井戸が多い」と特徴を説明。自噴井戸は、人為的な動力によらず地表に地下水が噴出する井戸



小浜市の地下水をテーマにした、県立大の公開講座＝8日、同市の県立若狭図書学習センター

で、同市内に120本程度確認されているとい

う。

谷口教授は「陸と海は、川だけでなく地下水でつながっている可能性がある。地下水にはいろいろな栄養があり、海に届い

て生態系が維持されている」と強調した。持続的に地下水を利用するため、水位や水質などのモニタリングが必要だと述べた。

また、田原大輔・県立海洋生物資源学部准教授による、同市の自噴井戸をテーマにした講演もあった。

2013.6.9 (Sun) 福434期